

優先する基本方針案

	現状	アンケートの回答			年間水収支の特徴	年間汚濁負荷収支の特徴	優先する方針と取り組み案
乙川下流ブロック	<p>(水の量について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市西部で農地、市東部で森林が減少。 市東部で森林保全活動、市西部では湿地保全と自然体験の森での活動がある。 森林の整備活動は減少傾向。 灌漑期の正常流量が不足。 <p>(水の質について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 乙川で河川水質は改善傾向(下水整備等により)。 下水道未整備地域、市西部の市街地の河川で水質が良好でない。 河川にゴミが捨てられることが問題。 乙川下流部がため池状態になると、水質悪化につながる。 油流出などの水質事故が毎年発生。 環境基準達成。 農業集落排水処理施設は河川水質改善に寄与。 地下水質は、主に市街地でテトラクロエチレン等が環境基準を超過。 水質の改善に取り組んでいる市民団体等がある。 <p>(災害について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ほぼ毎年、床上・床下、道路破壊・冠水の被害が発生。 	<p>(満足度が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害(洪水)の心配 災害(濁水)の心配 <p>(満足度が低いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わり 水の量 水の質 水辺環境(自然・親しみ) 	<p>(優先順位が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の質 災害(洪水) 災害(濁水) 	<p>(市民が協力できるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭排水をきれいにする 節水 川の清掃活動に参加 	<ul style="list-style-type: none"> 平常時における自然系、人工系の流量は両方5割程度。 表面流出が多い。 浸透、地下水流出が少ない。 河川からの取水、河川への排水が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活・営業系、産業系の負荷の割合が高い(生活系;78%、産業系;15%)。 生活・営業系の中では単独処理世帯からの負荷の割合が高い(約9割) 	<p>【優先方針1:水をきれいにする】</p> <p>【優先方針2:災害から守る(洪水・濁水)】</p> <p>【優先方針3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わりを深める 水を育む 水辺を豊かにする
	<p>＜市民の要望＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 満足度の低い水質の改善 満足度が高い災害(洪水・濁水)へのさらなる対応 	<p>＜考察＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 下水道の整備がある程度進んでいる(普及率約6割)ことと、乙川上流からの自然系流量が多いことから、河川水質は良好になっていると考えられる。 市街地内の支川等、自然系の流量が少なくなる河川では水質が悪くなると考えられる。 水質及び流量を改善するには、単独処理浄化槽の合併浄化槽化や、自然系流量の確保に取り組むことが必要。 表面流出が多く、治水施設の整備が不十分な地区では浸水被害の発生が心配される。 					
乙川上流ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 市西部の市街地、乙川沿岸、男川沿岸は浸水被害の発生の危険性が高い。 最大の災害は昭和46年8月の台風。 床上浸水1,274棟(東海豪雨時;床上浸水414棟) 河川整備計画において、氾濫防止対策が予定されている(現在検討中)。 浸水被害を軽減するためには、雨水を貯留浸透させることも重要。 ため池が多く分布しており、洪水対策として利用できる可能性がある。 農作物への干害が周期的に発生。 地震災害時に断水しても、全市民が河川水を生活用水(飲用不可)に利用可能な水量がある。 農業用水を消防水利として利用。 <p>(水辺環境について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川・ため池・水田・湿地などの水辺環境が豊富。 市街地を中心に河川環境整備や拠点整備が推進されている。 ため池等では外来種が特に優占し在来種が減少。 河川や水路でも在来種が減少。 <p>(水との関わりについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水辺環境が豊かであり、人と川との繋がりも豊富。 水辺を活用したイベント等行われているが、開催地点が限られている。 森の駅整備事業により自然環境の継承、保全育成が期待できる。 水環境の改善に関し、取り組んでいる学校がある。 	<p>(満足度が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害(洪水)の心配 災害(濁水)の心配 水辺環境(自然) 水の質 水辺環境(親しみ) <p>(満足度が低いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わり 水の量 	<p>(優先順位が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の質 水の量 水辺環境(自然) 	<p>(市民が協力できるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭排水をきれいにする 節水 森林保全や水環境をよくするための年会費を払う 	<ul style="list-style-type: none"> 雨がが多い。 平常時は自然系の流量の割合が高い(約9割)。 表面流出が少ない。 浸透、地下水流出が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活・営業系の負荷が多く、次いで自然系の負荷が多い(生活・営業系;44%、自然系;36%) 生活・営業系の負荷量の中では、単独処理世帯、汲取り処理世帯からの負荷が多い(単独;7割弱、汲取り;約3割) 	<p>【優先方針1:水をきれいにする】</p> <p>【優先方針2:水を育む】</p> <p>【優先方針2:水辺を豊かにする(自然)】</p> <p>【優先方針3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わりを深める
	<p>＜市民の要望＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 満足度の高い水質へのさらなる取り組み 満足度が高い水辺環境(自然)へのさらなる取り組み 満足度が低い水量の改善 	<p>＜考察＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 単独処理浄化槽、汲取りの家庭が約6割であり、生活排水からの負荷の割合が高いが、総量が少ないことと平常時には人工系の流量が1割程度であるため水質への影響が抑えられていると考えられる。 水質を改善するには、汲取りや単独処理浄化槽の合併浄化槽化が必要。 水収支への人工系の影響が小さく、流量を改善するためには別途水源の確保が必要。 					

	現状	アンケートの回答			年間水収支の特徴	年間汚濁負荷収支の特徴	優先する方針と取り組み案
青木川郡界川ブロック	<p>(水の量について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市西部で農地が減少。 市西部では湿地保全と自然体験の森での活動がある。 森林の整備活動は減少傾向。 <p>(水の質について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 下水道未整備地域、市西部の市街地の河川で水質が良好でない。 河川にゴミが捨てられることが問題。 油流出などの水質事故が毎年発生。 環境基準達成。 農業集落排水処理施設は河川水質改善に寄与。 地下水質は、主に市街地でテトラクロエレン等が環境基準を超過。 水質の改善に取り組んでいる市民団体等がある。 <p>(災害について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ほぼ毎年、床上・床下、道路破壊・冠水の被害が発生。 市西部の市街地は浸水被害の発生の危険性が高い。 最大の災害は昭和46年8月の台風。 床上浸水1,274棟(東海豪雨時)床上浸水414棟) 河川整備計画において、氾濫防止対策が予定されている(現在検討中)。 浸水被害を軽減するためには、雨水を貯留浸透させることも重要。 ため池が分布しており、洪水対策として利用できる可能性がある。 農作物への干害が周期的に発生。 農業用水を消防水利として利用。 	<p>(満足度が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害の心配(洪水) 災害の心配(濁水) <p>(満足度が低いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わり 水の量 水辺環境(自然・親しみ) 水の質 	<p>(優先順位が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の質 水辺環境(自然) <p>(以下同率)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の量 水辺環境(親しみ) 災害(濁水) 	<p>(市民が協力できるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭排水をきれいにする 節水 川の清掃活動に参加 	<ul style="list-style-type: none"> 平常時流量では自然系の割合が高い(8割)。 表面流出が少ない。 浸透、地下水流出が多い 浸透、地下水流出が多い。 家庭からの排水はほぼ全て河川へ流出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活・営業系の負荷の割合が高い(82%)。 生活・営業系の中では単独処理浄化槽からの負荷の割合が高い(約9割) 施肥由来等、計上外の汚濁負荷排出源が考えられる。 	<p>【優先方針1:水をきれいにする】</p> <p>【優先方針2:水辺を豊かにする(自然)】</p> <p>【優先方針3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を育む 水辺を豊かにする(親しみ) 災害から守る(濁水) 水との関わりを深める
	<p>(災害について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 最大の災害は昭和46年8月の台風。 床上浸水1,274棟(東海豪雨時)床上浸水414棟) 河川整備計画において、氾濫防止対策が予定されている(現在検討中)。 浸水被害を軽減するためには、雨水を貯留浸透させることも重要。 ため池が分布しており、洪水対策として利用できる可能性がある。 農作物への干害が周期的に発生。 農業用水を消防水利として利用。 <p>(水辺環境について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川・ため池・水田などの水辺環境が豊富。 市街地を中心に河川環境整備や拠点整備が推進されている。 農業用水幹線の一部を利用し、遊歩道設置、せせらぎ水路の復活。 ため池等では外来種が特に優占し在来種が減少。 河川や水路でも在来種が減少。 <p>(水との関わりについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水辺環境が豊かであり、人と川との繋がりも豊富。 水辺を活用したイベント等行われているが、開催地点が限られている。 森の駅整備事業により自然環境の継承、保全育成が期待できる。 	<p>(満足度が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害(濁水)の心配 <p>(満足度が低いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わり 水の質 水辺環境(自然・親しみ) 災害(洪水) 	<p>(優先順位が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害(洪水) 水の質 水の量 	<p>(市民が協力できるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭排水をきれいにする 節水 川の清掃活動に参加 	<ul style="list-style-type: none"> 占部用水、高橋用水の影響が大きい。 平常時は人工系の流量の割合が高い(約8割)。 表面流出が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活・営業系の負荷が多い。(90%) 生活・営業系の負荷量の中では、単独処理世帯からの負荷量が多い(約9割) 	<p>【優先方針1:災害から守る(洪水)】</p> <p>【優先方針2:水をきれいにする】</p> <p>【優先方針3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を育む 水との関わりを深める
広田川安藤川ブロック	<p>(水との関わりについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水辺環境が豊かであり、人と川との繋がりも豊富。 水辺を活用したイベント等行われているが、開催地点が限られている。 森の駅整備事業により自然環境の継承、保全育成が期待できる。 	<p>(満足度が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害(濁水)の心配 <p>(満足度が低いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わり 水の質 水辺環境(自然・親しみ) 災害(洪水) 	<p>(優先順位が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害(洪水) 水の質 水の量 	<p>(市民が協力できるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭排水をきれいにする 節水 川の清掃活動に参加 	<ul style="list-style-type: none"> 占部用水、高橋用水の影響が大きい。 平常時は人工系の流量の割合が高い(約8割)。 表面流出が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活・営業系の負荷が多い。(90%) 生活・営業系の負荷量の中では、単独処理世帯からの負荷量が多い(約9割) 	<p>【優先方針1:災害から守る(洪水)】</p> <p>【優先方針2:水をきれいにする】</p> <p>【優先方針3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を育む 水との関わりを深める

	現状	アンケートの回答			年間水収支の特徴	年間汚濁負荷収支の特徴	優先する方針と取り組み案
鹿乗川ブロック	<p>(水の量について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市西部で農地が減少。 市西部では湿地保全と自然体験の森での活動がある。 森林の整備活動は減少傾向。 <p>(水の質について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 下水道未整備地域、市西部の市街地の河川で水質が良好でない。 河川にゴミが捨てられることが問題。 油流出などの水質事故が毎年発生。 鹿乗川では環境基準未達成。 地下水質は、テトラソルフェン等が環境基準を超過。 水質の改善に取り組んでいる市民団体等がある。 <p>(災害について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ほぼ毎年、床上・床下、道路破壊・冠水の被害が発生。 市西部の市街地は浸水被害の発生の危険性が高い。 最大の災害は昭和46年8月の台風。 床上浸水1,274棟(東海豪雨時;床上浸水414棟) 河川整備計画において、氾濫防止対策が予定されている(現在検討中)。 浸水被害を軽減するためには、雨水を貯留浸透させることも重要。 ため池が分布しており、洪水対策として利用できる可能性がある。 農作物への干害が周期的に発生。 農業用水を消防水利として利用。 <p>(水辺環境について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川・ため池・水田などの水辺環境が豊富。 ため池等では外来種が特に優占し在来種が減少。 河川や水路でも在来種が減少。 <p>(水との関わりについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水辺環境が豊かであり、人と川との繋がりも豊富。 	<p>(満足度が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害の心配(湧水) <p>(満足度が低いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わり 災害の心配(洪水) 水の質 水辺環境(親しみ・自然) 	<p>(優先順位が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害(洪水) 水の質 <p>(以下同率)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の量 災害(湧水) 	<p>(市民が協力できるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭排水をきれいにする 節水 川の清掃活動に参加 	<ul style="list-style-type: none"> 上流からの流量の影響が大きい。 平常時は人工系の流量の割合が高い(約9割)。 表面流出が多い。 河川への排水が多い。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>< 考察 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 表面流出が多いことから浸水被害の発生が心配される。 下水道の整備が遅れており、環境基準を達成できていない。 水質を改善するには、下水道整備、汲取りや単独処理浄化槽の合併浄化槽化が必要。 汚濁負荷収支計上外の負荷排出源が存在する可能性がある。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 生活・営業系、産業系の負荷の割合が高い(生活系;63%、産業系35%)。 生活・営業系の中では単独処理浄化槽からの負荷の割合が高い(約9割) 施肥由来等、計上外の汚濁負荷排出源が考えられる。 	<p>【優先方針1:災害から守る(洪水)】</p> <p>【優先方針2:水をきれいにする】</p> <p>【優先方針3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を育む 災害から守る(湧水) 水とのかかわりを深める 水辺環境を豊かにする(親しみ・自然)

基本方針案のとりまとめ

	水の量	水の質	災 害		水辺環境		水との関わり
			洪 水	渇 水	自 然	親しみやすさ	
アンケートキーワード	<ul style="list-style-type: none"> 雨が降ると、すぐ水量が増える 普段の水量は少ない 季節によって水量が異なる 山林・森林の保全、保水機能向上が必要 家庭排水の流入が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 生活排水の流入が多い ゴミが多い 水量が少ないと汚く感じる (キーワード) ホタル 魚(コイ、フナ、メダカ) ザリガニ 	<ul style="list-style-type: none"> 大雨で溢れそうになる 低地は浸水頻度が高い 道路が冠水する 排水不良がある 本川から支川への逆流がある ゴミがたまり、川が溢れる 	<ul style="list-style-type: none"> 森林を保全する 断水時の給水が心配 農業用水の確保が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 桜が良い 自然環境が乏しい、単調 人工的な川は自然への配慮・工夫がほしい(コンクリート護岸、直線化等) 魚が棲める所が減った ゴミが多い 	<ul style="list-style-type: none"> 散歩、ウォーキングができて良い ただし、車が多くて危険 コンクリート護岸、フェンス等で水辺に近づけない 遊べるところが少ない 子どもが遊んでいる 釣りができると親しみが増す 水が汚い 水草で川に近づけない 	<ul style="list-style-type: none"> 花火大会がある イベント、行事がある(魚の放流、草刈) 活動できる川ではない 水が汚い
年間水収支・汚濁負荷	<ul style="list-style-type: none"> 下流は、上水・工水・農業用水、生活排水等の川との水のやり取りが多い(乙川下流、広田川、鹿乗川) 上流は人工系の影響が少ない(乙川上流、青木川) 	<ul style="list-style-type: none"> 単独処理家庭、汲取り家庭からの生活排水による汚濁の占める割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 低平地、排水の不良等により浸水被害が発生すると考えられる(広田川、鹿乗川)。 				
基本方針案の例	<ul style="list-style-type: none"> 雨を受け止め、ゆっくり流し、上手に使う ゆっくり流し、上手に使う 豊かな水を育て、上手に使う 豊かな水を創る 	<ul style="list-style-type: none"> 負荷を減らし、清らかな流れを保つ ホタルが飛び交う清流の確保 山からの水をきれいに使い、きれいに流す きれいで清らかな水を創る 	<ul style="list-style-type: none"> 雨を蓄え、ゆっくり流す 雨を蓄え、災害に備える 雨を流域にとどめて水害を減らし、渇水や震災に備える 安全で災害に強い水環境を創る 		<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然とふれあえるまち 人と自然がやすらげる水辺空間をつくる 人と自然にやさしい水辺空間を育てる 生き物にやさしく、親しみのある水辺を創る 	<ul style="list-style-type: none"> 水環境づくりに参加する 水を活かし、水を通してつながりあう 水を共生し、水を活かす 水との関わりを創る 	
対策の方向性案	<ul style="list-style-type: none"> 河川流量の確保 ゆっくり流す 水源涵養機能の維持増進 雨水浸透機能の維持・回復 雨水の有効利用・地下涵養 雨水を貯める、利用する、浸透させる 適切な土地利用 自然地の保全・土地利用の適正化 都市の保水機能の向上 森林・農地の保全・整備 森林・農地の保水機能の向上 緑の募金等緑化推進活動 	<ul style="list-style-type: none"> 汚濁負荷量の削減 排水をきれいにして流す 安全でおいしい水の確保 生活排水の適正処理 事業所排水の削減指導 河川清掃の推進 水質保全活動の推進 散乱ゴミ対策 水質の監視 環境に配慮した農業の推進 地下水汚染の防止 	<ul style="list-style-type: none"> 治水対策の促進 災害に強いまちづくり 流域の流出抑制 保水、遊水機能の保持 河川の洪水流下能力の確保・向上 内水排除 被害軽減システムの確立 緊急時における体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 非常時における水確保 いざというときに備えて水を蓄える 多様な水源の確保 雨水の有効利用 節水型社会の構築 河川空間などの防災機能の活用 非常時の危機管理体制の強化 水源地の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺を保全する 水辺環境の保全と創出 流域における生態系の保全・回復 生物・生態系の保全・回復 動植物の多様な生育・生息環境の保護 多自然型川づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺空間の整備 親水性の向上 人々が憩う身近な水辺づくり 自然と触れ合える場の確保 川に親しむ場と機会の提供 河川利用施設の整備促進 水辺景観の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 人と水のかかわり強化 流域の人々のつながりをつくる 水の流れるを感じるまちづくり 水環境を学ぶ機会の充実 環境教育の促進 水環境保全意識の普及 水文化の育成 風土や文化を伝える 上流下流域間交流 水環境の環境資源への活用 水環境情報の提供と発信 水環境を保全する農林漁業の振興